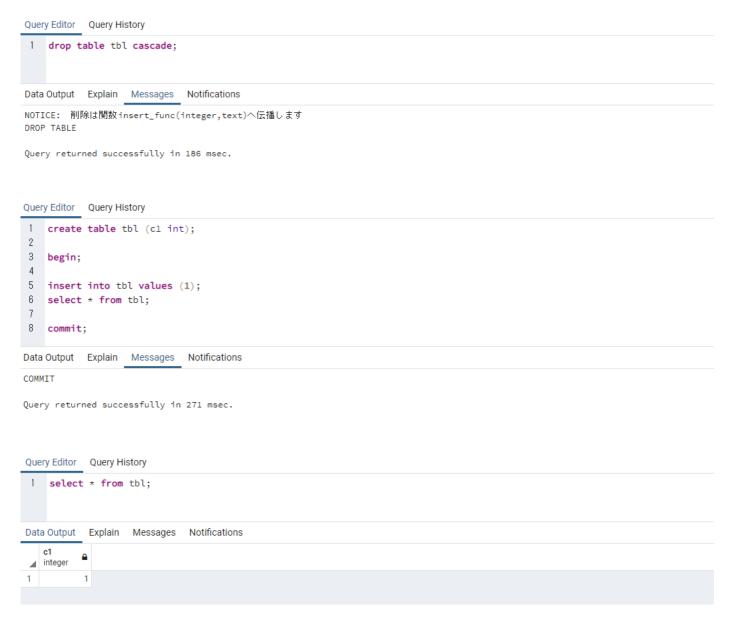
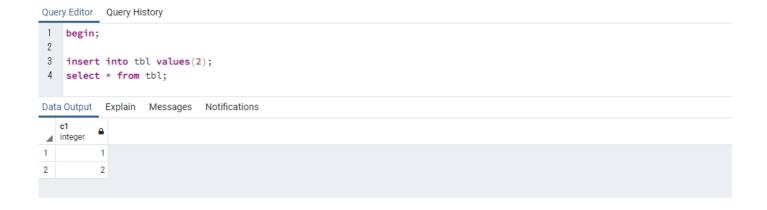
10-2 トランザクションを制御するコマンド



BEGINを打っておいて、後から処理を取り消したくなったら、ROLLBACKを実行すれば良い。



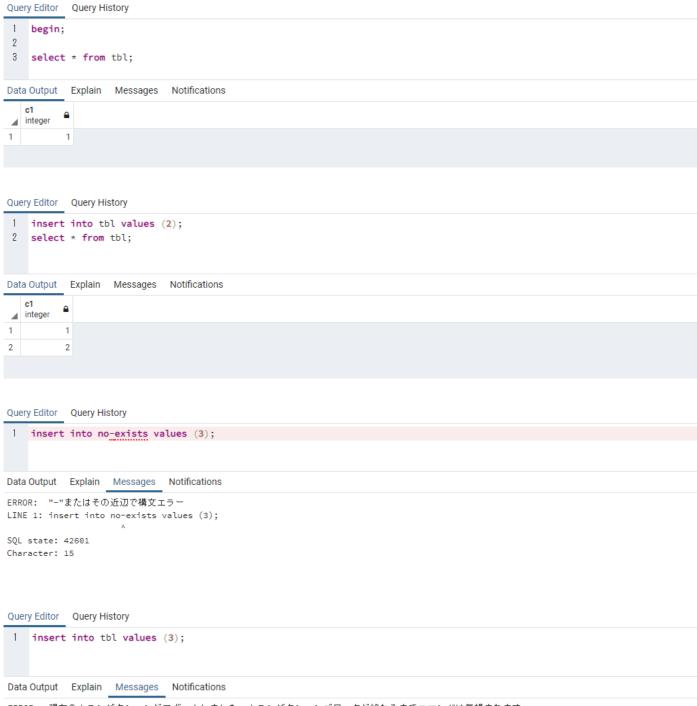
```
Query Editor Query History

1 rollback;
2 select * from tbl;

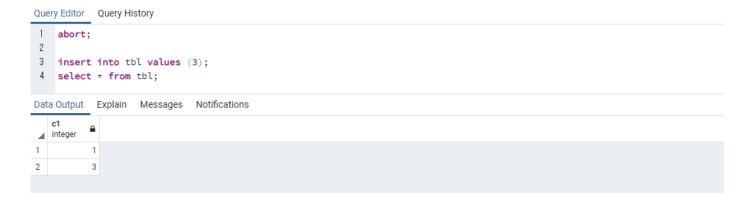
Data Output Explain Messages Notifications

1 1 1
```

エラーとなったSQL以降の処理は、ABORTまたはROLLBACKが実行されるまで、SQLを実行しても無視される。



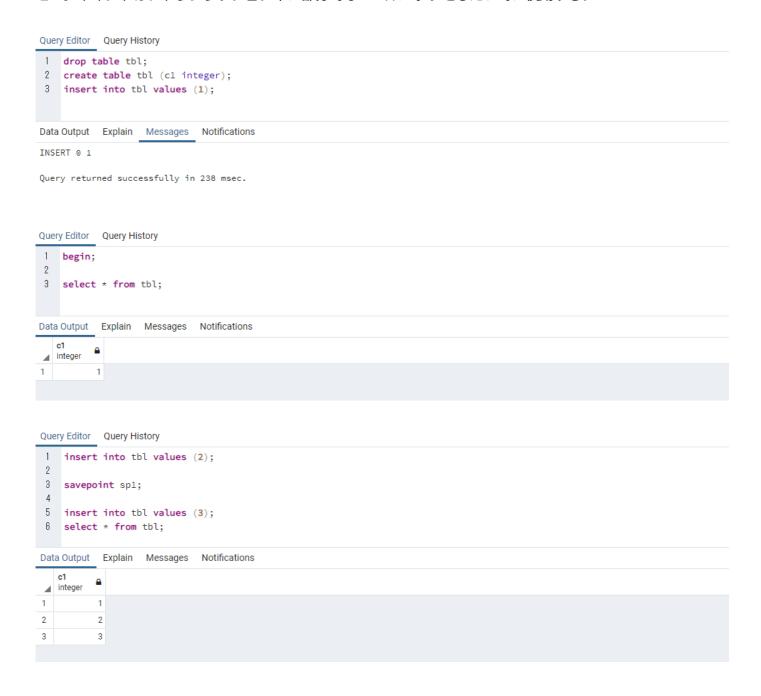
ERROR: 現在のトランザクションがアボートしました。トランザクションブロックが終わるまでコマンドは無視されます SQL state: 25P02



ABORT後であれば、再度SQLの実行をすることができる。 尚、ROLLBACKをしているため、トランザクション内の「2を代入する」の処理も取り消されている。

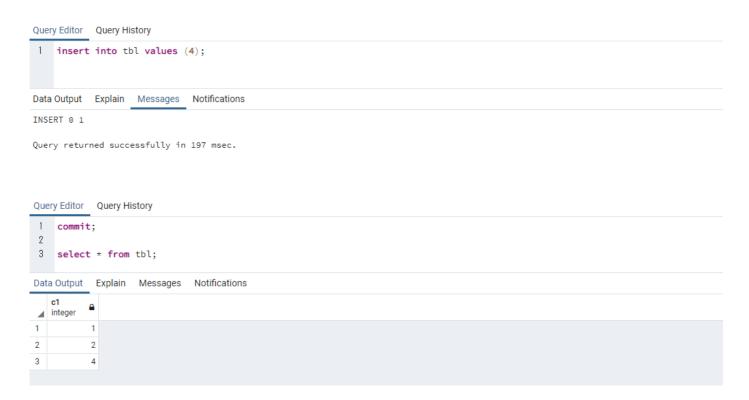
10-2-2 SAVEPOINT

セーブポイントは、トランザクション中に部分的なロールバックをしたい時に使用する。



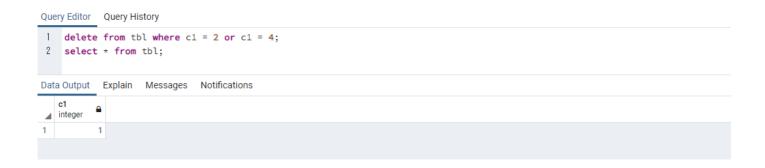


セーブポイントで、トランザクション全体ではなく、3を挿入する直前まで戻ることができる。

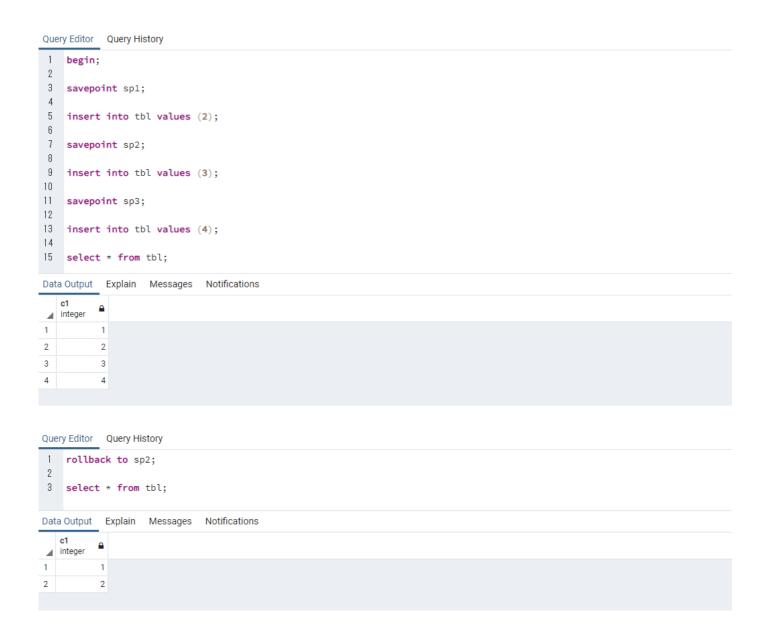


次の例では、エラー発生後(通常はエラーが出たら、全てのトランザクションをロールバックしなければならない)に

セーブポイントを使用して、エラー発生の直前まで戻っている。







上記のように、セーブポイント(sp2)までロールバックできた。

また、不要となったセーブポイントは削除することができる。(トランザクション内ブロックでのみ使用可能)